

科名：全科

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間／週
教育訓練課程	専門課程	キャリア形成概論	必須	3期、4期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	人文科学					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
JMTC（外部講師）		207			視聴覚室	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
企業内外で通用する職業能力を高めることの重要性について意識する。						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
労働者自身が主体性を持って自分自身の能力や特性に合わせたキャリア形成を行うことの必要性について、課題等を通じて学習します。	①	キャリア形成の意味について知っていること。				
	②	就業と労働者のエンプロイアビリティについて知っていること。				
	③	雇用管理と能力開発の関連について知っていること。				
	④	キャリア・コンサルティングについて知っていること。				
	⑤	キャリア形成の6ステップについて知っていること。				
	⑥	キャリア形成プランの作成方法について知っていること。				
	⑦	キャリアシートの作成方法について知っていること。				
	⑧	各種キャリア形成支援ツールの活用方法について知っていること。				
	⑨					
	⑩					

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	自分の人生について考えることが目的ですので、正解はありません。自分、他者、社会について、自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
授業科目についての助言	「キャリア」と「自分らしさ」をキーワードに、近々始まる自分の職業人生をイメージし、この学生生活をどのように過ごしていくのか、働くとは、社会とは何なのかを考えることにより、「生きる」とはどういうことなのか、考えるきっかけになることを目的とするものです。
教科書および参考書(例)	授業の中で適宜紹介
授業科目の発展性	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">キャリア形成概論</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">職業社会概論</div>

評価の割合(例)								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
			50	25	15			
評価割合	授業内容の理解度	40	15	5				
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力							
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力、推論能力	10	10	10				
	取り組む姿勢・意欲						10	
	協調性							

回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	1. キャリア形成 (1)キャリア形成とは	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
2週	2. エンployアビリティ (1)グローバル時代のエンployアビリティ ① 企業に求められる人材とは？ ② 仕事の変化に対応できる能力 ③ 前へ踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
3週	3. キャリアプランニング (1)キャリアプランの概要 (2)キャリア形成の6ステップ ① 自己理解 ② 仕事理解 ③ 啓発的経験 ④ キャリア選択に係る意思決定 ⑤ 方策の実行 ⑥ 仕事への適応	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
4週	(3)キャリアプランの作成 ① グローバル時代に求められるキャリア形成プラン	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
5週	(4)ジョブ・カードの作成 ①ジョブ・カードとは ②ジョブ・カードの作成	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
6週	4. ケーススタディ (1)キャリアプランの事例研究	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
7週	4. ケーススタディ (1)キャリアプランの事例研究	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
8週	4. ケーススタディ (1)キャリアプランの事例研究	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
9週	4. ケーススタディ (1)キャリアプランの事例研究	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
10週	5. 論理的思考 (1)ロジカルライティング ① 論理的文章の読み方 ② 論理的文章の組立て方 ③ 論理的文章の書き方	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
11週	5. 論理的思考 (1)ロジカルライティング ① 論理的文章の読み方 ② 論理的文章の組立て方 ③ 論理的文章の書き方	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
12週	5. 論理的思考 (1)ロジカルライティング ① 論理的文章の読み方 ② 論理的文章の組立て方 ③ 論理的文章の書き方	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
13週	5. 論理的思考 (1)ロジカルライティング ① 論理的文章の読み方 ② 論理的文章の組立て方 ③ 論理的文章の書き方	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
14週	5. 論理的思考 (1)ロジカルライティング ① 論理的文章の読み方 ② 論理的文章の組立て方 ③ 論理的文章の書き方	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
15週	6. コミュニケーション技術 (1)「書く」コミュニケーション技術	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
16週	6. コミュニケーション技術 (1)「書く」コミュニケーション技術	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
17週	6. コミュニケーション技術 (1)「書く」コミュニケーション技術	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
18週	6. コミュニケーション技術 (1)「書く」コミュニケーション技術	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。



回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	1.「働く」意味 (1)「働く」という意味 (2)「自己実現」という意味	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
2週	2. 社会のルール (1)社会の動向	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
3週	(2)ノーマライゼーション	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
4週	(3)労働者の動向	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
5週	(4)職業社会における社会的通念 (5)社会人に求められるビジネススキル	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
6週	(6)分業と労働生産性	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
7週	(7)グローバル社会の現実(卒業生の講話)	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
8週	3. 技術者倫理 (1)技術者倫理とは	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
9週	3. 技術者倫理 (1)技術者倫理とは	講義、演習 質疑、試験	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
10週	(2)技術者の役割と責任	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
11週	(2)技術者の役割と責任	講義、演習 質疑、試験	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
12週	4. ビジネスマナー (1)商慣行と社会的常識(日本と諸外国)	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
13週	(2)日本におけるビジネスマナー	講義、演習 質疑、試験	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
14週	(3)諸外国への理解 ①諸外国の習慣 ②諸外国の経済状況 ③諸外国で絶対にしてはいけない事など	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
15週	5. コミュニケーション技術 (1)「話す」コミュニケーション技術	講義、演習 質疑、試験	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
16週	(2)「聞く」コミュニケーション技術	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
17週	(3)「応答する」コミュニケーション技術	講義、演習 質疑、試験	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。
18週	(3)「応答する」コミュニケーション技術	講義、演習 質疑	自分なりに深く考え、言語化するように心がけてください。

科名：全科

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間/週
教育訓練課程	専門課程	数学	必須	生産技術科 2期	2	4
教科の区分	一般教育科目			電気エネルギー制御科・電子情報技術科 1期・2期	2	2
教科の科目	自然科学					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
生産技術科:佐々木 隆幸(外部講師) 電気エネルギー制御科:小関 英明 電子情報技術科:佐々木 隆幸(外部講師)					A-205、A-315、C-101	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
工学分野全般を学ぶ為の基礎的知識です。						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
実践技術者として、また専門領域において必要となる基礎的な数学的知識及び、計算手法を学習します。	①	実数や整式の計算ができる。				
	②	方程式や不等式が解ける。				
	③	1次関数や2次関数について知っている。				
	④	指数関数について知っていて、累乗根や指数の計算ができる。				
	⑤	対数関数について知っていて、対数の計算ができる。				
	⑥	三角関数について知っていて、加法定理などの計算ができる。				
	⑦	数列や極限について知っていて、その計算ができる。				
	⑧	微分について知っていて、その計算ができる。				
	⑨	不定積分について知っていて、その計算ができる。				
	⑩	定積分について知っていて、その計算ができる。				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	高校数学 I までの範囲をよく復習しておく。
授業科目についての助言	本教科は、工学を学習して行く上において必須となる科目です。内容は高校数学の復習が中心で、勉強すれば必ず修得できます。そのため、復習等を欠かさず行い、特に演習課題は他人の解答を写すのではなく、必ず自ら行い、わからない問題や疑問があれば積極的に質問するように心がけてください。
教科書および参考書(例)	生産技術科、電気エネルギー制御科:実践技術者のための基礎数学 基礎編/(社)実践教育訓練研究協会 電子情報技術科 :大学新入生のための微分積分入門/共立出版
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">数学</div> <span style="font-size: 2em; margin: 0 5px;">—</span> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">数学演習</div>

評価の割合(例)								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
			50	20	20			10
評価割合	授業内容の理解度	40	15	10				
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力							
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力、推論能力	10						
	取り組む姿勢・意欲			5	10			10
	主体性・協調性							

回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	1. ガイダンス (1)シラバスの提示と説明 2. 実用数学 (1)整式の計算	講義	展開公式や分数式の計算を練習する。
2週	(2)平方根と累乗	講義	平方根の計算や指数法則を使った累乗の計算法について理解する。
3週	(3)1次関数とグラフ	講義	1次関数について理解し、そのグラフや関数式の導出について理解する。
4週	(4)2次関数とグラフ	講義	2次関数とそのグラフ、および2次方程式や2次不等式の関係について理解する。
5週	3. 指数関数 (1)累乗根 (2)指数関数とグラフ	講義	累乗根や指数法則および指数関数やそのグラフについて理解する。
6週	4. 対数関数 (1)対数 (2)対数関数とグラフ	講義	対数および、自然対数、常用対数とその計算法について理解する。対数関数とそのグラフについて理解する。
7週	5. 三角関数 (1)弧度法と三角比 (2)正弦定理、余弦定理	講義	弧度法と三角比の定義について理解し、いろいろな角度に対する三角比の値を求めることができる。余弦定理について理解する。
8週	(3)三角関数とグラフ	講義	三角関数およびその各グラフの特徴を理解し、実際にグラフを描く。
9週	(4)加法定理	講義	各加法定理の公式を理解し、それを用いて計算練習をする。
10週	中間試験	試験	演習問題を十分に練習し、整式や、指数、対数、三角関数についての計算ができるようにする。
11週	6. 数列と極限 (1)数列と極限	講義	等差数列、等比数列について理解する。極限の考え方について理解し、計算の練習をする。
12週	(2)関数の極限と連続	講義	関数の極限の公式の導出および関数の連続の定義について理解する。
13週	7. 微分法 (1)平均の変化率と微分係数	講義	平均の変化率、微分係数の定義を理解する。
14週	(2)導関数 (3)導関数の応用	講義	導関数の定義について理解し、導関数における各公式を導出できるようにする。接線の式の計算、および増減表から、関数の曲線を描く。
15週	8. 積分法 (1)不定積分 (2)不定積分の計算	講義	不定積分の定義について理解し、各関数の不定積分の計算を行なう。
16週	(3)定積分 (4)定積分の計算	講義	定積分の定義について理解し、各関数の定積分の計算を行なう。
17週	(5)定積分と面積・体積	講義	定積分と面積、体積との関係を理解し、その計算を行なう。
18週	試験	試験	これまでの授業で行なったことを、総合的に試験する。特に、演習問題を十分練習しておく。

科名：生産技術科

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間/週
教育訓練課程	専門課程	数学演習	必須	3期、4期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
佐々木 隆幸(外部講師)		207			A-205	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
工学系の科目を履修する為に必要な、数学の知識を演習を通して深める。数学や物理、工業力学、電気回路などを履修する上で、重要である						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
工学を学ぶ上で必要な計算技術を演習をとおして学習します。	①	整式の展開や因数分解ができる。				
	②	有理式の計算ができる。				
	③	指数、累乗根の計算ができる。				
	④	対数の計算ができる。				
	⑤	三角関数を使った計算ができる。				
	⑥	数列の計算ができる。				
	⑦	極限の計算ができる。				
	⑧	微分の計算ができる。				
	⑨	不定積分の計算ができる。				
	⑩	定積分の計算ができる。				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	数学で学んだ内容をよく復習しておく。
授業科目についての助言	本教科は、工学を学習して行く上において必須となる科目です。内容は高校数学の復習が中心で、勉強すれば必ず修得できます。そのため、復習等を欠かさず行い、特に演習課題は他人の解答を写すのではなく、必ず自ら行い、わからない問題や疑問があれば積極的に質問するように心がけてください。
教科書および参考書(例)	
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-right: 5px;">数学</div> <span style="font-size: 24px; margin: 0 5px;">—</span> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-left: 5px;">数学演習</div> </div>

評価の割合(例)								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		50		50			
授業内容の理解度		40		40				
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力								
プレゼンテーション能力								
論理的な思考力、推論能力		10						
取り組む姿勢・意欲					10			
主体性・協調性								

回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	1. 実用数学 (1) 技術者に必要な数式と計算法	講義・演習	
2週	2. 数学演習 (1) 三角関数 ①三角比 ②正弦・余弦定理 ③加法定理	講義・演習	
3週	2. 数学演習 (1) 三角関数 ①三角比 ②正弦・余弦定理 ③加法定理	講義・演習	
4週	2. 数学演習 (1) 三角関数 ①三角比 ②正弦・余弦定理 ③加法定理	講義・演習	
5週	(2) 指数関数 ①指数関数 ②対数関数	講義・演習	
6週	(2) 指数関数 ①指数関数 ②対数関数	講義・演習	
7週	(2) 指数関数 ①指数関数 ②対数関数	講義・演習	
8週	(3) 微分・積分 ①微分係数と導関数 ②不定積分と定積分	講義・演習	
9週	(3) 微分・積分 ①微分係数と導関数 ②不定積分と定積分	講義・演習	
10週	(3) 微分・積分 ①微分係数と導関数 ②不定積分と定積分	講義・演習	
11週	(4) 場合の数と確率 ①順列・組み合わせ ②二項定理 ③確率の計算 ④期待値	講義・演習	
12週	(4) 場合の数と確率 ①順列・組み合わせ ②二項定理 ③確率の計算 ④期待値	講義・演習	
13週	(4) 場合の数と確率 ①順列・組み合わせ ②二項定理 ③確率の計算 ④期待値	講義・演習	
14週	(5) 数列 ①数列とその和 ②色々な数列	講義・演習	
15週	(5) 数列 ①数列とその和 ②色々な数列	講義・演習	
16週	(5) 数列 ①数列とその和 ②色々な数列	講義・演習	
17週	(6) ベクトルと複素数 ①平面上のベクトル ②直交座標 ③極座標	講義・演習	
18週	(6) ベクトルと複素数 ①平面上のベクトル ②直交座標 ③極座標	講義・演習	



科名：全科

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間／週
教育訓練課程	専門課程	物理	必須	1期・2期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
小関 英明		157	<a href="mailto:koseki@aomori-pc.ac.jp">koseki@aomori-pc.ac.jp</a>		視聴覚室、C-205	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
工学分野全般を学ぶ為の基礎的知識です。						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
実践技術者として、また専門領域において必要となる基礎的な力学について学習します。	①	SI単位について知っている。				
	②	変位、速度、加速度について知っている。				
	③	等速度直線運動及び等加速度運動について知っている。				
	④	力とそのつり合いについて知っている。				
	⑤	力のモーメントについて知っている。				
	⑥	運動の3法則について知っている。				
	⑦	放物運動について知っている。				
	⑧	運動量保存について知っている。				
	⑨	仕事の定義と力学的エネルギーの保存について知っている。				
	⑩	直流回路および交流回路について知っている。				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	高校までの理科をよく復習しておく。
授業科目についての助言	本教科は、工学を学習して行く上において必須となる科目です。ただ単に公式を暗記するのではなく、公式の導出について理解するように努めてください。そのために、必ず家庭での復習をし、演習問題は出来るだけ自分で解き、解らないところは質問するようにしてください。
教科書および参考書(例)	テキスト：飯島徹穂・高田正保・佐々木隆幸・青山隆司 著 アビリティ物理 物体の運動(共立出版株式会社) 参考書：
授業科目の発展性	

評価の割合(例)								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		50	20	20			10
授業内容の理解度		40	15	10				
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力								
プレゼンテーション能力								
論理的な思考力、推論能力		10						
取り組む姿勢・意欲				5	10			10
主体性・協調性								

回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	1. ガイダンス (1)シラバスの提示と説明 2. 単位と基本定数 (1)物理量と単位 (2)SI単位系	講義	物理量の単位の導出について理解するとともに、国際単位系について知っている。
2週	3. 運動の記述 (1)物体の位置と変位 (2)速度、加速度	講義	各種座標系と物体の位置の表し方および、速度、加速度について理解する。
3週	(3)等速直線運動 (4)等加速度運動	講義	等加速度運動、および等加速度運動において、速度、加速度、物体の位置の間の関係式について理解する。
4週	4. 静力学 (1)力の性質	講義	力の定義と力の合成、分解といった性質、力の単位について知っている。
5週	(2)力のつり合い (3)力のモーメント	講義	2力、および3力のつり合い、力のモーメントについて理解する。
6週	5. 運動の法則 (1)ニュートンの運動の3法則	講義	運動の第一法則、第二法則、第三法則それぞれについて理解する。
7週	(2)運動方程式の応用	講義	力の作用している物体について運動方程式を作り、それを解くことができる。
8週	(3)放物運動 (4)摩擦力が働く台上での運動	講義	運動方程式の応用として、放物運動や、摩擦力が働くときの物体の運動を理解する。
9週	中間試験	試験	これまでの授業で行なったことを、総合的に試験する。特に、演習問題を十分練習しておく。
10週	6. 運動量と力積 (1)運動量と力積 (2)運動量保存の法則	試験	運動量と力積の関係を理解し、運動量保存の法則を導出する。
11週	(3)衝突運動	講義	運動量保存の法則を用い、衝突運動や分裂運動についての問題を解く。
12週	7. 仕事と力学的エネルギー (1)仕事の定義	講義	仕事の定義を理解し、仕事量、仕事率といった物理量を知っている。
13週	(2)位置エネルギーと運動エネルギー	講義	重力による位置エネルギー、弾性による位置エネルギー、運動エネルギーについて理解する。
14週	(3)力学的エネルギー保存の法則 (4)力学的エネルギー保存の法則の応用	講義	力学的エネルギーの保存則について理解し、これを応用して、各種の問題を解く。
15週	9. 電磁気学 (1)直流電流・電圧	講義	電流や電圧、オームの法則について知っている。
16週	(2)交流電流・電圧	講義	正弦波交流と実効値について知っている。
17週	(3)電気回路	講義	キルヒホッフの法則や、RLC回路について知っている。
18週	試験	試験	これまでの授業で行なったことを、総合的に試験する。特に、演習問題を十分練習しておく。

科名：生産技術科・電気エネルギー制御

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間/週
教育訓練課程	専門課程	英語 I	必須	1期 2期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
成田 悦子（外部講師）		207			生産技術科:A-205 電気エネルギー制御科:C-101	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
基礎的な日常英会話及びビジネス英会話ができる基礎能力を習得し、併せて英文読解の基礎について学習します。	①	英語を聞くことに慣れる。				
	②	英語を話すことに慣れる。				
	③	多くの英文を読解する。				
	④	英文を書く。				
	⑤	基本的な英文法を習得する。				
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	中学校・高校で習得した英単語・英文法を復習しておくことが望ましい。
授業科目についての助言	授業に参加したあと、「今日の授業は理解できた、得るものがあった、力がついた、楽しかった」の一つだけでも当てはまるものがあれば、それを積み重ねることによって英語力は身についていく。参加型の授業を目指したい。
教科書および参考書(例)	生産技術科: Science Wisdom 科学から学ぶ知恵/株成美堂 電気エネルギー制御科: Reading in Science in association with Nature 最新科学と人の今を読む/株南雲堂
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">英語 I</div> <span style="margin: 0 10px;">—</span> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">英語 II</div>

評価の割合(例)								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
			80					20
評価割合	授業内容の理解度	30						
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力	20						
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力、推論能力	30						
	取り組む姿勢・意欲						20	
	協調性							

回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	日常表現	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
2週	英会話で表現	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
3週	英会話で表現	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
4週	各場面での英会話	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
5週	各場面での英会話	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
6週	挨拶・自己紹介	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
7週	電話対応	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
8週	電話対応	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
9週	試験		
10週	会社訪問	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
11週	リスニング	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
12週	リスニング	聞く 話す	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
13週	英文マニュアルの読解	読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
14週	英文マニュアルの読解	読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
15週	英文マニュアルの読解	読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
16週	英字新聞・ホームページ読解	読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
17週	英字新聞・ホームページ読解	読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
18週	試験		

科名：電子情報技術科

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間／週
教育訓練課程	専門課程	英語 I	必須	1期 2期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
小関 正光（外部講師）		207			A-315	

授業科目に対応する業界・仕事・技術

授業科目の訓練目標

授業科目の目標	No	授業科目のポイント
身近な科学に関する話題の英文を通して、基礎的な工業英語を学習します。また、生の英語に親んでもらいます。	①	基本的な英文法を学習する。
	②	英語の音読や復唱することに慣れる(習熟)。
	③	日常会話の英語に慣れ親しみ、聞き取れるようになる。
	④	英語で簡単な会話ができるようになる。
	⑤	基礎的な「工業英語」の習得を目指す。
	⑥	英語を書くことに慣れる。
	⑦	
	⑧	
	⑨	
	⑩	

授業科目受講に向けた助言

予備知識・技能技術	高校卒業程度の語彙力を備えていることが望ましい。
授業科目についての助言	<p>まず何よりも大事なことは、「忘れない内に復習する」である。次に、外国語は音を聞いて覚える、が基本であるから、音読や教師の後に続いての復唱などを通して正しい発音、イントネーション、リズムにより英語が発せられるように自己訓練することである。それが、自然な早さで自然に話される英語を聞き取れるようになるもっとも効果的で、そして最善の方法である。正しいリズムで話すためにはリエゾン(連結発音)とリダクション等のインフォーマルな発音・発声(relaxed speech)に慣れ、また、マスターする必要がある。</p> <p>また、英文を書く練習も非常に大切である。書くことは手の運動であるのみならず、目で見ることであり、定着という観点からは手を動かし目で見ると、必要でかつ非常に有効な手段である。</p>
教科書および参考書(例)	Science Updates 最新科学の知見/株成美堂
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-right: 5px;">英語 I</div> <span style="margin: 0 5px;">—</span> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-left: 5px;">英語 II</div> </div>

評価の割合(例)

指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
			70	20				10
評価割合	授業内容の理解度	50						
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力	20						
	英語音声の修得度		20					
	論理的な思考力、推論能力							
	取り組む姿勢・意欲						5	
	授業参加度						5	

回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	(授業・講義の進め方説明) 英文の聴解及び読解、音読など	講義・演習	取り組み方を確認する。
2週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
3週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
4週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
5週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
6週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
7週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
8週	試験(リスニングと英文読解、単語・語句・文法知識、等を問う)	リスニング試験と筆記試験	リスニングと筆記試験で実施(1時間内で)。
9週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に復習を怠らないように努める。
10週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に復習を怠らないように努める。
11週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に復習を怠らないように努める。
12週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に復習を怠らないように努める。
13週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に復習を怠らないように努める。
14週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に復習を怠らないように努める。
15週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に復習を怠らないように努める。
16週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に復習を怠らないように努める。
17週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に復習を怠らないように努める。
18週	試験(リスニングと英文読解、単語・語句・文法知識、等を問う)	リスニング試験と筆記試験	リスニングと筆記試験で実施(1時間内で)。

科名：生産技術科

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間／週
教育訓練課程	専門課程	英語Ⅱ	選択	5期 6期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
成田 悦子（外部講師）		207			A-205	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標		No	授業科目のポイント			
科学・技術に関する基本的な英文や簡単な英文マニュアル、生産工程に関する指示文書などを読解する能力について学習します。また、科学技術分野の基本的な単語に習熟し、簡単な説明文などを作成する能力について学習します。		①	読解力を身につける。			
		②	聴解力を身につける。			
		③	語彙力を身につける。			
		④	作文力を身につける。			
		⑤				
		⑥				
		⑦				
		⑧				
		⑨				
		⑩				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	中学校・高校で習得した英単語・英文法を復習しておくことが望ましい。
授業科目についての助言	英和辞典を携行すること。 英文を読むことによって、社会や学術的な話題に関する知識、一般常識、専門知識を広げることが出来る。
教科書および参考書(例)	Science Wisdom 科学から学ぶ知恵/株成美堂
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">英語Ⅰ</div> <span style="margin: 0 10px;">—</span> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">英語Ⅱ</div>

評価の割合(例)								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
				80				
評価割合	授業内容の理解度	30						
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力	20						
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力、推論能力	30						
	取り組む姿勢・意欲						20	
	協調性							

回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	工業英語とは	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
2週	工業英語の基本文法	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
3週	工業英語の基本文法	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
4週	科学技術分野の英単語	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
5週	科学・技術に関する文章を読む	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
6週	マニュアルを読む	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
7週	生産工程に関する指示文、注意事項を読む	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
8週	生産現場の掲示文、看板を読む	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
9週	試験		
10週	工業英語で使われる特殊な文法	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
11週	工業英語で使われる特殊な文法	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
12週	簡単な説明書を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
13週	簡単な説明書を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
14週	簡単な説明書を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
15週	簡単な操作指示文を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
16週	簡単な操作指示文を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
17週	簡単な操作指示文を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
18週	試験		



科名：電気エネルギー制御科

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間／週
教育訓練課程	専門課程	工業英語	必須	3期 4期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
成田 悦子（外部講師）		207			C-101	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標		No	授業科目のポイント			
科学・技術に関する基本的な英文や簡単な英文マニュアル、生産工程に関する指示文書などを読解する能力について学習します。また、科学技術分野の基本的な単語に習熟し、簡単な説明文などを作成する能力について学習します。		①	読解力を身につける。			
		②	聴解力を身につける。			
		③	語彙力を身につける。			
		④	作文力を身につける。			
		⑤				
		⑥				
		⑦				
		⑧				
		⑨				
		⑩				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	中学校・高校で習得した英単語・英文法を復習しておくことが望ましい。
授業科目についての助言	英和辞典を携行すること。 英文を読むことによって、社会や学術的な話題に関する知識、一般常識、専門知識を広げることが出来る。
教科書および参考書(例)	Reading in Science in association with Nature 最新科学と人の今を読む/株南雲堂
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">英語 I</div> <span style="margin: 0 10px;">—</span> <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">英語 II</div>

評価の割合(例)								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
				80				
評価割合	授業内容の理解度	30						
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力	20						
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力、推論能力	30						
	取り組む姿勢・意欲						20	
	協調性							

回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	工業英語とは	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
2週	工業英語の基本文法	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
3週	工業英語の基本文法	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
4週	科学技術分野の英単語	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
5週	科学・技術に関する文章を読む	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
6週	マニュアルを読む	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
7週	生産工程に関する指示文、注意事項を読む	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
8週	生産現場の掲示文、看板を読む	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
9週	試験		
10週	工業英語で使われる特殊な文法	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
11週	工業英語で使われる特殊な文法	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
12週	簡単な説明書を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
13週	簡単な説明書を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
14週	簡単な説明書を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
15週	簡単な操作指示文を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
16週	簡単な操作指示文を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
17週	簡単な操作指示文を書く	聞く 読む 書く	予習・復習に努め、時間を見つけて英語に触れる。
18週	試験		

科名：電子情報技術科

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間／週
教育訓練課程	専門課程	工業英語	必須	3期 4期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
小関 正光（外部講師）		207			A-315	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標		No	授業科目のポイント			
身近な科学に関する話題の英文を通して、基礎的な工業英語を学習します。また、生の英語に親しんでもらいます。		①	基本的な英文法を学習する。			
		②	英語を音読する、復唱することに慣れる（習熟）。			
		③	日常会話の英語に慣れ親しみ、聞き取れるようになる。			
		④	英語を書くことに慣れる。			
		⑤	基礎的な工業英語に親しむ。			
		⑥				
		⑦				
		⑧				
		⑨				
		⑩				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	高校卒業程度の語彙力を備えていることが望ましい。
授業科目についての助言	<p>まず何よりも大事なことは、「忘れない内に復習する」である。次に、外国語は音を聞いて覚える、が基本であるから、音読や教師の後に続いての復唱などを通して正しい発音、イントネーション、リズムにより英語が発せられるように自己訓練することである。それが、自然な早さで自然に話される英語を聞き取れるようになるもっとも効果的で、そして最善の方法である。正しいリズムで話すためにはリエゾン（連結発音）とリダクション等のインフォーマルな発音・発声（relaxed speech）に慣れ、また、マスターする必要がある。</p> <p>また、英文を書く練習も非常に大切である。書くことは手の運動であるのみならず、目で見ることであり、定着という観点からは手を動かし目で見ると、必要でかつ非常に有効な手段である。</p>
教科書および参考書（例）	Science Updates 最新科学の知見/株成美堂
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-right: 5px;">英語 I</div> <div style="margin: 0 5px;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px; margin-left: 5px;">英語 II</div> </div>

評価の割合（例）								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
			70	20				
評価割合	授業内容の理解度	50						
	技能・技術の習得度							
	コミュニケーション能力	20						
	英語音声の修得度		20					
	論理的な思考力、推論能力							
	取り組む姿勢・意欲							5
	授業参加度							5

回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	(授業・講義の進め方説明) 英文の聴解及び読解、音読など	講義・演習	学習への取り組み方を再確認する。
2週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
3週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
4週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
5週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
6週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
7週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
8週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
9週	試験(リスニングと英文読解、単語・語句・文法知識、等を問う)	リスニング試験と筆記試験	リスニングと筆記試験で実施(1時間内で)。
10週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
11週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
12週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
13週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
14週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
15週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
16週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
17週	英文の音読・復唱、聴解及び読解などを通して、英文法を習得し、総合的な英語力を身につける学習活動	講義・演習	特に「忘れないうちに復習」を怠らないように努める。
18週	試験(リスニングと英文読解、単語・語句・文法知識、等を問う)	リスニング試験と筆記試験	リスニングと筆記試験で実施(1時間内で)。

科名：全科

訓練科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間/週
教育訓練課程	専門課程	保健体育	選択	1～4期	4	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	保健体育					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
小田桐 匡孝 (外部講師)					体育館	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
運動の楽しさや喜びを味わうことができるように自ら進んで運動するとともに、公正・協力・責任や健康、安全に留意する態度を身に付ける。						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
各種の運動を合理的に実践し、運動機能を高めるとともに、それらの経験を通して、公正・協力・責任などについて学習します。	①	体づくり 歩数測定 6分間歩行				
	②	運動指数の確認				
	③	卓球 シングルス ダブルス 試合				
	④	バレーボール 六人制 オーバーパス アンダーパス				
	⑤	サーブ練習 試合				
	⑥	バドミントン 各種ストローク練習 試合				
	⑦	ソフトテニス 四人一組 グループ分け 試合				
	⑧	ハンドボール ドリブルシュート練習 試合				
	⑨	バスケットボール ディフェンス オフェンス ドリブルシュート 試合				
	⑩	野外活動 ノルディック・ウォーク他				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	
授業科目についての助言	チームの課題や自分の能力に適した課題解決をしましょう。
教科書および参考書(例)	
授業科目の発展性	保健体育

評価の割合(例)								
指標・評価割合	評価方法	試験						
		試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他実技	合計
評価割合		20					80	100
	授業内容の理解度						40	
	技能・技術の習得度	10					10	
	コミュニケーション能力							
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力、推論能力							
	取り組む姿勢・意欲	10					20	
協調性						10		

回数	訓練の内容	運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	オリエンテーション		
2週	体づくり 測定 6分歩行 運動指数の確認		
3週	バトミントン 基本練習		
4週	バトミントン 試合ルールの説明		数え方
5週	バトミントン リーグ戦		(2人一組で総当り)
6週	卓球 基本練習		
7週	体づくり 測定 6分歩行 運動指数の確認		
8週	卓球 シングルス・ダブルス		サーブの出し方、ルール説明
9週	卓球 総当りのリーグ戦 ダブルス		
10週	体づくり 測定 6分歩行 運動指数の確認		
11週	バレーボール 基本練習		
12週	バレーボール オーバーパス		6人制
13週	バレーボール アンダーパス		25点3セット
14週	バレーボール サーブ練習		
15週	体づくり 測定 6分歩行 運動指数の確認		
16週	※ 場所借用できる場合		
17週	野外活動 内容説明		
18週	野外活動 ノルディック・ウォーク(デフェンシブル)		
19週	野外活動 ノルディック・ウォーク(アグレッシブル)		
20週	野外活動 不整地歩行		ポール選択
21週	ラケットテニス 基本練習		
22週	体づくり 測定 6分歩行 運動指数の確認		リーグ戦
23週	ラケットテニス 試合ルール説明		
24週	体づくり 測定 6分歩行 運動指数の確認		
25週	ハンドボール 基本練習		
26週	ハンドボール ドリブルシュート		7mスロー練習
27週	ハンドボール 両サイドからのシュート		
28週	体づくり 測定 6分歩行 運動指数の確認		
29週	ハンドボール 試合		
30週	ハンドボール 試合		
31週	バスケットボール 基本練習		ドリブルシュート
32週	体づくり 測定 6分歩行 運動指数の確認		フリースローシュート
33週	試合		ディフェンス オフェンス練習
34週	試合		
35週	試合		
36週	体づくり 測定 6分歩行 運動指数の確認		